

かんさいほうこく アクセス関西報告

～障害者の立場で安全な駅利用を考える～ 可動式ホーム柵3タイプ・検証報告～

2014年5月12日【月】13:00～16:30 (開場12:30)

会場は、大阪市・大淀コミュニティーセンター・ホールでした。

今回の検証報告には、当事者・ヘルパー・鉄道会社関係者等、およそ250人ほどの参加者が集いました。

当日のプログラムを予定通りにスタートし、まず、野々村好三さん(視覚障害者の歩行の自由と安全を考える会[略称:ブルックの会]元運営委員)による基調講演がありました。テーマは『誰もが利用しやすい鉄道の現実を求めて』でした。

ブルックの会の立ち上げの話から始まり、日常の鉄道利用に関して5つのテーマに基づいた話がありました。

- 1、人にとっての外出の意義
- 2、今、なぜ「移動の権利」なのか
- 3、安心・安全・自由・快適な鉄道利用とは
- 4、施設から地域へ、そして交通アクセス
- 5、事業者と障害当事者とのコミュニケーションが生み出す「交通バリアフリー」の可能性

自己の経験を踏まえて、とても詳しく解り易い話で、会場の中も皆真剣に聞いていました。

次に、可動式ホーム柵実証検証チームによる検証報告がありました。

検証チームは5人で構成され、視覚障害者(全盲・弱視)、車いす(電動・手動・ベッド型)というそれぞれ違う障害の立場からホーム柵を検証し、試験設置されたホーム柵の良い点・悪い点を比較検証しました。

参加メンバーは岸本慶子(自立生活夢宇宙センター)三原ひろみ(すいた自立支援センター・ねばーらんど)立林巳喜男(日本自立生活センター)川本将勝(自立生活センター・リアライズ)足立誠(自立生活センター・ナビ)の5人です。

検証チームは大阪の駅だけではなく、東京、神奈川の試験設置された駅に出向き、実際に駅を利用する事により、良い点悪い点をさらに明確化し今回の検証結果の報告になりました。

各障害から見たポイントを各自がそれぞれ良い点、悪い点をあげ検証し報告しました。結果、全てのホーム柵にはまだまだ問題点があり、全ての障害者や、健常者にとって利用しやすいとはとても言い難い状況でした。

その中でも、チームが選んだベストホーム柵のある駅は、JR ゆめ咲線 桜島駅(ホーム柵タイプ:昇降ロープ式ロープ型柵5本)と、東急田園都市線 つきみ野駅(ホーム柵タイプは昇降ロープ式ロープ柵14本×2)でした。



野々村好三さん



今回の検証報告には、関西の鉄道会社の関係者の方も参加して下さいました。
大阪交通局・西日本旅客鉄道株式会社(JR)・阪神電気鉄道株式会社・阪急電鉄株式会社・京阪電気鉄道株式会社・京都市交通局・近畿日本鉄道株式会社(近鉄)・国土交通省 近畿運輸局と関西の鉄道関係等がたくさん集まって下さいました。
検証報告の後、各鉄道会社の取り組みについて鉄道

各会社側から報告がありました。

ホーム柵の設置にあたり、ただ設置するだけではなく、それに伴う駅構内や電車の車両の改良をしなければならない様々な点がある事を説明し、現状の計画や予算の上で、なるべく安全・安心できる駅の環境作りに努めていく方向である事を説明して頂きました。また、鉄道会社間で互いに他社の設置例等を参考にし意見交換をし合い協力していく事も案として出ました。

そして今回の検証報告会の参加で、実際に利用する障害者の声を聞き、始めて知ったことや気付いたことがある等、この検証報告会の開催意義に基づく前向きな意見を頂く事ができました。その後、今後のアクセス関西の計画や予定を連絡し、皆さんに参加を呼びかけました。

そして最後には、今回の検証結果報告会の成功と今後の相互協力の証になるべく記念撮影で幕を閉じました。

今回の検証報告会は雨模様に関わらず関西一円から約250人の参加があり、とても意義のある会になりました。

今後も駅環境の改良の為に、これからも更なる協力や話し合い、検証報告が大切だと思います。

